

庄内協同ファームだより

No.169 2017年11月号



発行/
〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338
tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140
<http://www.shonaifarm.com>



ハナとコウタ

今年も新米の季節がやって来ました。現在は稲刈りが終わり出荷も順調に進んでいます。

今年の天候は春先順調にスタートしたのですが、6月に天候不順となり全ての作物に影響を与え、枝豆の収穫も遅れましたし稲も若干の影響は受けましたが、7月には回復したかなと思った矢先に8月にも天候不順となり、出穂が思う様に進まずドラドラした出穂になり稲刈りが例年より遅く始まりました。出穂がバラついたこともあり稲刈りの見極めに苦労しました。組合員の努力もあり品質は良いのですが、収量は天候不順による影響で屑米が多い様です。このように天候不順な年は有機栽培をするうえで苦労も多く管理が大変でしたが食べては大変美味しいので是非ご賞味下さい。

近年は毎年気象変動が激しく例年通りと言う事が少なくなってきました。天候に大きく左右される農業をする人の年齢の高齢化、田んぼの委託等による個人の経営面積拡大等で有機栽培出来る面積は現状維持が精一杯で増やすためには仲間を増やさなければならぬと感じ

ています。

来年は農業政策が大きく変わる模様です。詳細はまだ分かりませんが、一番大きく変わると言われているのが長年続いていた転作の廃止です。転作の廃止と言っても国が管理するのが廃止になると言う事であって、転作配分はあって転作の補助金等はある模様なので、転作をするかしないかは個人の判断に任せられるとの事。他にもいろいろ変わる様ですが、今後注視していかなければなりません。

このお便りが届く頃には結果が出ていると思いますが、この原稿を書いている時点では衆議院選挙の真っ最中です。内閣を改造し「仕事人内閣」と言いながら一度も国会を開催せず仕事をせずに解散しました。国内外で問題が山積している中、私には「何故今？」と言う疑問しか浮かびませんでした。野党も野党で毎日違う情報が飛び交い「このままで大丈夫？」と感じる中、地元候補者の演説やテレビ、ネット等のいろいろな情報を見て考えましたが、誰に投票するかと言う事を非常に悩みました。皆さん選挙に行きましたか？私は行きましたよ。

11月となり今年もあと二か月を残すのみとなりました。年々月日の流れるのが早く感じます。私の場合健康診断に行つて検診の結果は大丈夫だったのですが、気持ち的に春からずっと「何かいつもと感じが違うなあ」と思っていて「その何か」と言うのは分からず「モヤッ」とした感じで過ごしてきました。齢56になり加齢による更年期障害なのかもしれません。男にもあると言う事を聞いた事があるのできつとそうなのでしょう。笑笑
これからは今までよりは無理せずにユルリと頑張っていきたいと思います。皆様もこれから師走に向かい忙しい日々が続くと思いますがご自愛下さい。

今野裕之



ヨイショ!
ヨイショ!

パルシステム埼玉 稲刈り交流会

石垣 忠彦

「あっ、いなかだ!!」とバスを下りるなり虫を追いかけて
わす子供達。今年も一泊二日でパルシステム埼玉の組
合員さんとの稲刈り交流が行われました。計画では初日
に行く予定でしたが天気予報通りの雨にみまわれ、急遽
二日目の朝一に変更。葉に付いている露が乾かず、ズボ
ンを濡らしながらの稲刈り交流となりました。

初めに圃場持ち主の私が手刈り方法と束ね方を説
明。「こうやって、こうやって、こうします」と説明すると、
「こうってどうやるの?。こうじゃ分からない(笑)」と、参加
者から厳しい指摘をうけました。自分が当たり前のよう
にできることを人に説明するのは難しいものだなあと改
めて実感させられました。

いよいよ稲刈りがスタート。大人も子供も夢中になっ

て刈りはじめます。
初めはぎこちなく危
なっかしい鎌の使い方
でしたが、時間が経つに
つれ、慣れてくると生産者や
参加者同士、昔の事や山形につ
いての思い出、子供の事などの会話
をする余裕ができ、楽しそうにしていました。

7畝(10m×70m)という面積を約1時間半で終了。け
が人もなく楽しく終えることができました。

今年は5月の下旬から8月にかけて低温、日照不足の
ため例年より1週間ほど生育が遅れて稲刈りが始まりま
した。田植え交流圃場の稲も少し青くまだ早いかな?と
思われましたが、無事終えることができました。

来年もお待ちしています(^^^)/



我が家の

美味

メシ



レシピ

アイディア

古い炊飯器でも美味しく炊ける、
発芽玄米の炊き方

食べたい量の玄米をヨーグルト製造機に
一晩つける。

玄米コースで炊く。

柔らかく美味しい玄米ご飯の出来上がり。

(埼玉・Kさん)

お米の炊き方大募集!

掲載させていただいた方には
もれなくお米3合をプレゼント!
ご応募いただいたアイディアは
順次掲載いたします。

【宛 先】

FAX番号 0235-78-2140

メール honma@shonaifarm.com

.....商
.....品
.....紹
.....介

庄内協同ファーム
おもち

皆さんはもちと聞いて何を想像しますか。例えば、お正月をイメージしたり、今の季節でしたら、お鍋に入れてあるもち巾着を想像したり、もちと聞くだけで色々連想できると思います。それだけでもちって我々日本人の心の中に根付いた食べ物なんです。まさしく日本のソウルフードの代表格です。

さて、そのソウルフードのもちですが、庄内協同ファームの代名詞でもあります。

原料のもち米は「でわもち」といい、他の産地では作付けされない山形県庄内地方特有の品種です。この品種の特徴は、粒が小さく、作付けした場合も収量が少ないのですが、もちにすると粘りが強く、きめ細やかにしつとりと仕上がります。



今年も白もち、玄米もち、よもぎもち、黒豆もちといった様々な種類の餅を揃えて、皆様の注文をお待ちしております。
今野昭史

庄内柿

今年は鳥海山の残雪が多く、初雪までの期間を考えるとの萬年雪になりそうな気配です。

それだけ今年の夏は気温が低かった、または暖かい雨が少なかったのではないかと思われます。稲の生育も遅れ気味で収穫がどうなるか心配です。

しかし柿の生育は思ったより影響が少なく模様で、5月から6月にかけては気温が低く、不順な天候でしたが、幸い7月が空梅雨で気温が高く、生理落果がほとんどなく着果数は平年並みを確保しています。また目立った病害虫被害もなく、品質の良い柿が収穫できるのではないかと期待しているところです。

最近柿の下草の処理に除草剤を使う農家が多くなり、機械で年4回の下草刈りは珍しくなりました。なかなか骨の折れる作業ですが、今年あたり除草剤を使い続けた園地とそうでない園地を比較すると明らかに柿の生育が違って見えます。除草剤を使っている園地の柿は葉が小さく乾いているように見えます。一方、苦労して草刈りをしている園地の柿は葉が大きく艶があるように見えます。(個人的感想です)

柿は他の果樹と違い比較的根が浅く、除草剤や肥料などの影響を受けやすいのではないかと思います。それだけ土づくりの効果も現われ易いといえるでしょう。今年の農薬散布は6農薬で乗り切りましたので、地域の標準的農薬散布回数(3分の1程度)です。化学肥料に頼らず、有機質肥料のみで栽培してすでに30年近く経過していますが、減農薬で毎年甘くておいしい柿が収穫できるのはやはり土づくりの成果と言えるでしょう。これからも気を抜かず管理をして、おいしい柿をお届けできるようにしたいと思います。

今年も庄内柿をよろしく願いたします。生産者 志藤正一



庄内 おかあさんの
～おいしい台所～

誰でもできる
簡単おやつ!

～超簡単!! くじら餅風おやつ～

(材料) ポン玄米砂糖なし(100g)、黒糖(80g)、お湯(適量)

(作り方)

1. ポン玄米砂糖なしと黒糖をミキサーで細かく砕く
2. 細かく砕いたものをふるいにかける
3. 粉状になったものに少しずつお湯を入れ、混ぜていく
4. 固まるまでこねて、形を整える
5. 冷蔵庫で半日冷やし、食べやすい大きさに切ったら出来上がり

もちもち食感が
おいしい～



皆川昭子



ペンリレー 徒然草

五十嵐 良一



今年の庄内平野の秋は、天候に恵まれず刈り取り作業も遅れました。白鳥を見

ながらの収穫作業は就農49年、初めてです。それでも発表された作況は「やや良」との事。我が家の作柄は「でわのもち」は良かったものの、出穂の遅れた晩生種のコシヒカリ、つや姫は期待した収量にはとどかない、という手ごたえです。先年購入した色彩選別機が効力を発揮しているものの青い未熟粒が多く、品質重視の籾摺り作業です。天候に左右される農業とはいえ有機栽培の安定した肥培管理の修得が必至と痛感します。来年への課題です。稲刈りは息子がコンバインで私はいえ、旋回する30aの角を2坪位鎌で刈り、収穫した籾を2トトラックと軽トラで交互に家の乾燥機に入れます。そんな時、原稿の依頼があり、2つ返事で答えたもののいつも言葉が絞れず悩み込み時間を費やしてしまいます。作業しながら考えるのですが、夜になると思わずバックナンバーをひっぱり出し読み続けてしまいます。168号を数え載せてる文章はいつも「うまいもんだなあ」と感心して読みます。これ以前にも農民レポート発行、号外、番外、そして「いづくタイムず」とかなりの数です。みんな書く事が好きなのかもしれない。議論しながら文字で確認し



半ば迄毎年鶴岡や酒田で会員展を開催したり、絵は売れなかったけれど、地元の小さな画廊

ながらの行為が庄内協同ファームとして分裂もせず続け、支えられてきた要因の一つなのかもしれません。庄内協同ファーム創立時のメンバーは庄内農業高校で学窓を共にした人たちも多く、同級の野口吉男君とは同じ美術部でした。農業高校での美術部は認知度が低く、物理教室の北側の片隅をあてがわれ、イーゼルを立て描いていました。同室の南側は物理クラブで二級先輩の富樫英治さんはアマチュア無線をやっていました。放課後の部活時はコールサインをいつも呼び続け賑やかで「JA7YDR」「ジェイエッセブンワイディアル」「ヨーク、デンマーク、ランドレース」と下のコールが豚の品種名で、おかしくて今でも笑いと共に記憶しています。野口君の結婚式の時には「美術部での白いキャンバスを緑のキャンバスに変えて頑張ろう」と話したのを覚えています。就農後も地元の公募展に数回入賞したり、農高美術部OBで「緑画会」を創設し、30代の

で二度だけ個展もありました。何の志もなく、祖父や両親に言われるがままに入学し、就農した私でしたが、振り返れば今に至る迄の全てが必然だったのかと青春時代をほのぼのと思うわけです。30代後半からは描く事もなくパレットは乾いた絵の具がこびりついたまま。描いた絵も連れ合いから塗りつぶされ、彼女の絵になるほど忘れかけてる趣味ですが、若葉の頃や初夏の緑になると買えなかつた高価な絵の具をふんだんに使って庄内の緑を描きたいと思ったりもします。それでも未だに有機栽培の田んぼが僕にとってキャンバスということなのでしょう！

「働く農機具」 グレンタンク

グレンタンクはコンバインで収穫した籾を運ぶための箱型タンクで、籾を排出するための装置もついています。

グレンタンクには軽トラック用や普通トラック用があります。車にグレンタンクを乗せて刈り取った籾を入れて作業場に運び乾燥機に張り込みます。



あとがき

4月からミニバスケットボールを始めた息子。先日初めての試合に出場しました。試合といっても小学4年生以下の大会で、まだルールもわからない子供達。少しの反則は見逃してもらいながらの試合となりました。まるでラグビーのようにボールを持って走る子、相手チームのゴールにシュートを決める子など笑いあいの試合でしたが、上級生から借りたアカバカなユニホームに身を包み、真剣に試合に挑んでいる子供達がたくさんと微笑ましかったです。

スポ少に入団して7ヶ月。持久力や体力がつき、特に食事面では以前より断然食欲が増し、特にお米は毎回おかわりするくらいもりもり食べるようになってきました。日に日にたくましくなってきたなあと実感しています。

親の私達が全力でサポートし、今後の成長を楽しみながら見守っていききたいと思います。

(紅)

